

令和元年度協働推進事業
 音声を文字にする「対話支援サポーター養成事業」実施報告書

【 目 的 】

本事業は、音声を文字にする支援者「対話支援サポーター」を養成することで、播磨町を「誰にとっても暮らしやすい、やさしい町」にしていくことを目的にしている。聴覚障害者、知的障害者、高齢者、子どもの中には、文字情報があるほうが情報を理解しやすく、対話に入りやすくなる人がいる。支援を通して幅広い人が、適切に情報を受ける環境を整えることで、誰ひとり情報から取り残されることのない播磨町にすることを目的にしている。

【活動記録・成果】

今年度の活動は以下の通り実施した。受講生の習熟度に合わせて何度か計画変更があったものの、申請時の計画の実施・初年度の目的達成ができた。

- ・実施期間： 令和元年8月7日（水）～令和2年3月4日（水）
- ・場 所： 地域連携交流施設 2階会議室/播磨町福社会館 3階会議室
- ・参加人数： 延べ135名（公開講座等への一般受講者数を含む）
- ・主 催： はりまデザインラボ
- ・協 力： チームW・研修センター
- ・取組内容： ①受講生対象に、内容が異なる連続講座3コースを実施した。
 ②一般の方が広く参加できる公開講座を計4回実施した。

受講生対象の連続講座3コースについて

| コース名 | 支援の対象 | 概要 |
|--------------|-------|--|
| ポイントテイカー（昼間） | 対個人 | 支援対象者の特性に応じた手書きによる支援方法を中心に学ぶ。 |
| PC 関係入力・音声認識 | 対多数の方 | 研修会や集会などでの会場への全体投影、インターネット環境を活用した遠隔文字支援、音声認識アプリを利用した支援方法を学ぶ。 |
| ポイントテイカー（夜間） | 対個人 | 窓口・受付業務等、日常で生かせる対話方法を中心に学ぶ。単発参加可能。 |

事業実施報告

| | 日付 | 内容 | 場所 | 参加人数 | 対象 | 備考 |
|--------|-------------------------|---|----------|---------|-----|----------------------|
| プ レ | 2019年8月7日（水） 10時～12時 | イベント（広報・募集） デジタル絵本を通して講座紹介 「空飛ぶ金魚と世界のひみつ」 | 地域連携交流施設 | 15 名 | 一般 | |
| 1 | 9月4日（水） 10時～12時 | 開講式・公開講座① ・外部講師による講座 ワークショップ | 地域連携交流施設 | 20 名 | 一般 | 講師：石倉健二氏 （兵庫教育大学） |
| 2 | 10月2日（水） 10時～12時 | ポイントテイカー【昼間】 ・聴覚障がいについて知る ・ポイントテイクの基礎を学ぶ | 地域連携交流施設 | 7名 | 受講生 | |
| 3 | 10月16日（水） 10時～12時 | PC 関係入力・音声認識 ・聴覚障がいについて知る ・キー入力の基礎を学ぶ | 地域連携交流施設 | 5名 | 受講生 | |

| | | | | | | |
|----|---|---|----------|-----|------------|--|
| 4 | 10月16日(水) 18時30分～20時30分 | ポイントテイク【夜間】 ・聴覚障がいについて知る ・ポイントテイクの基礎を学ぶ | 播磨町福祉会館 | 8名 | 受講生 | |
| 5 | 11月6日(水) 10時～12時 | ポイントテイク【昼間】 ・対人支援について ・目的に応じた書き方 | 地域連携交流施設 | 5名 | 受講生 | |
| 6 | 11月20日(水) 10時～12時 | PC 連係入力・音声認識 ・速く・正しく・読みやすく | 地域連携交流施設 | 5名 | 受講生 | 補講 |
| 7 | 11月20日(水) 18時30分～20時30分 | 合同公開講座② ・「聴覚障害者への誤解 失敗談から学ぶ」 | 播磨町福祉会館 | 6名 | 一般、 受講生 | 講師：川口清隆氏 (兵庫県立障害者スポーツ交流館) |
| 8 | 12月4日(水) 10時～12時 | ポイントテイク【昼間】 ・UDトークを使ってみる | 地域連携交流施設 | 7名 | 受講生 | |
| 9 | 12月18日(水) 10時～12時 | PC 連係入力・音声認識 ・UDトーク・誤認識の編集 | 地域連携交流施設 | 5名 | 受講生 | |
| 10 | 12月18日(水) 18時30分～20時30分 | ポイントテイク【夜間】 ・UDトーク等の音声認識 | 播磨町福祉会館 | 14名 | 受講生 | |
| 11 | 2020年1月15日(水) 10時～14時 ※12時30分からは 実習を兼ねた交流会 | 合同公開講座③ ・当事者の体験から学ぶ ・障害を持つお子さんの育児体験から | 地域連携交流施設 | 4名 | 一般、 受講生 | ゲスト：中嶋一平氏 (明石中途失聴者協会)、井町幸江氏 (播磨町民) |
| 12 | 1月15日(水) 18時30分～20時30分 | ポイントテイク【夜間】 ・UDトーク Q&A | 播磨町福祉会館 | 4名 | 受講生 | 補講 |
| 13 | 2月5日(水) 10時～12時 | ポイントテイク【昼間】 ・語彙・書き取り練習 ・模擬実習 | 地域連携交流施設 | 5名 | 受講生 | |
| 14 | 2月19日(水) 10時～12時 | PC 連係入力・音声認識 ・模擬実習 ・連携入力・待機 | 地域連携交流施設 | 5名 | 受講生 | 補講 |
| 15 | 2月19日(水) 18時30分～20時30分 | 合同公開講座④ ・障害者が求める情報支援 ～こんな配慮がとても嬉しい | 播磨町福祉会館 | 5名 | 一般、 受講生 | ゲスト：片岡知子氏 (神戸市難聴者・中途失聴者協会) |
| 16 | 3月4日(水) 11時～12時 | オンライン研修会 ・ZOOM 遠隔支援体験 | 各参加者自宅等 | 15名 | 一般、 受講生 | 修了式延期のため代替措置 |



【 成 果 】

講座においては、以下の成果があった。

■ポイントテイカー（昼間）

① 受講生の障害理解が深まった

講座内容に、「難聴」疑似体験を取り入れたことや、当事者による講義・交流を取り入れたことで、受講生が自分ごととして障害理解を深めることができたことが、毎回受講生が記入する振り返りシートからうかがえた。

② 支援者としての心構えが身についた

受講生は、講義を重ねるごとに、支援対象者（利用者）に伝えるためのポイントテイク（以下「テイク」と表記）であることを理解し、利用者に配慮したテイクの基本技術を身に着けた。

■PC 連携入力・音声認識

①PC 連携入力の基本技術を習得できた

受講生は「速く・正しく・読みやすく」という入力の基本となる三要素を身につけた。初年度は、初歩的な連携入力の実習や、オンライン研修、遠隔からの連携入力を体験した。それらの活動を通して、受講生は話者の意図・表現を変えることなく PC 入力するための基本的技術を身につけ、「PC 連携入力」のメリットを理解できたようだ。

② 音声認識についての理解を深めた

一般的に普及されている「音声認識」についての知識・理解を深めたことが、受講生の振り返りシートからうかがえる。音声認識アプリ「UDトーク」の使い方や、支援方法としての「誤認識箇所修正」入力の学習、アプリの特徴理解（アプリによって議事録作成への活用や、難聴者の声も認識するなどの強みが異なる）も理解し、実際の「音声認識」アプリ活用シーンを想定することができた。

■ポイントテイカー（夜間）

①多くの人が「対話支援」「音声認識」について知る機会を提供できた

本コースのみ単発参加可能にしたことで、幅広い方に参加いただき「対話支援サポーター」「音声認識アプリ」について知ってもらう機会を提供できた。講座では日々のくらしで生かせる支援方法・心構え・技術、音声認識アプリの特徴、マイクなどの周辺機器や、災害時のラジオ活用方法なども学んだ。受講者は自分にできる支援について考える機会になった。

【今後への課題】

① 現場実習の機会を増やす

初年度は、今後の対人支援の基本になる「支援の心構え」を受講生一人一人が身に着けることに重点をおき、外部講師によるワークショップや、当事者からの体験談講義・交流などを中心に講座を開催した。次年度は、受講生がより実践的なスキルを習得するために、地域の方と連携・協力しながら現場実習の機会を増やしていきたい。また、PC 連携入力・音声認識コースでは、遠隔で支援できるメリットをフルに活かしたオンライン支援スキルを高めていくことで、実際に地域で活動できる対話支援サポーターを養成していきたい。

② 音声認識による支援の場を広める

初年度は、音声認識アプリの基本活用方法を学んだが、次年度は、実践的な使用を提案していきたい。例えば、地域における受付業務での活用、議事録作成などでの試験的实施などが考えられる。また、対話支援サポーター養成講座に「リスピーク（復唱）」という技術習得講義を取り入れることで、より精度の高い支援ができるサポーター育成をすすめていきたい。

③ インターネット環境の確保

PC 連携入力・音声認識コースの講座では、インターネット活用が必須となるため、講座開催場所にインターネット環境を整えていく必要がある。加えて、受講生自らがインターネット環境の設定について理解を深めるためのサポートも進めていき、地域の中で遠隔支援が広まるための総合的スキルを受講生が身に着けていく必要があると感じる。

④ 受講生の確保

本年度初めて「対話支援サポーター養成」事業をスタートしたこともあり、地域の方には講座自体がまだまだ認知されていない。活動についての広報強化や、実践的な活動の場をもつことで、町内の人に知ってもらおう工夫と受講生募集を進めたい。

【今後の展望（講座からの気づき）】

今回はじめて講座を実施して、障害理解というのがまだまだ低いと感じました。

受講生は、当事者との交流を持つことで互いの行き違いに気づき、支援が具体的な形で見えることで、対話支援サポーターという自覚も生まれてきており、講座の意義も伝わったようです。今後は、サポーターの養成に継続して取り組み、対話支援サポーターとして登録者を増やしていきたいと思います。

受講終了者の受け皿となる支援体制の構築を目指しているが、本年度では人材育成にとどまっている。安定した実活動のできる体制の具体化をはかることも、今後の課題として取り組んでいきたい。

【対話支援サポーターについて】

この事業は、障害者総合支援法に基づく意思疎通支援事業（厚労省が定めた84時間以上の要約筆記者養成講座）として養成するものではありません。

受講修了生の活動範囲は、「聞こえ」が不自由な中途失聴者・難聴者に限らず、子ども、老人、在日外国人など、情報が届きにくいとされる人になります。活動範囲は、地域の会議・講座・講演会・学校等のあらゆるフィールドが想定されますが、意思疎通支援事業の派遣対象となる現場に対しては、活動範囲から外れます。

本事業、対話支援サポーターの受講生が、この意思疎通支援事業（いわゆる公費派遣など）の担い手としても活動を目指す場合は、改めて要約筆記者養成講座の受講が必要となります。